

評価結果報告書

1. 評価の視点

5歳児「活動にあまり意欲的ではない子に対するの対応(言葉かけ・援助)」

2. 分科会評価者からの、意見、感想、アドバイス

行事の内容や共同製作などの話し合いを通して、自分たちがやってみたいことを実現させることで、クラスとしても仲間意識が高まっている。友だちと一緒に何かをする楽しさや達成感を感じられるように願っているが、どの活動でも興味を持って取り組む子どもだけではないのが現状だ。そのような場面について意見をいただきたいと思い、今回の問いを作成した。当日は、思い思いの振り返りなどの普段の朝の様子、遠足の導入として行った動物園の地図作りの様子を見てもらった。

朝の様子では、「子どもの言葉を拾っている」「子どもの意見を全体に向けて共有している場面が多く見られた」等の子どもとの対話についての意見、「すぐ話を聞く姿勢になっている」「子どもたちが友だちや保育者の話を聞いている」等の話し合いの雰囲気についての意見があった。どの園も日頃から話し合いや発表する場面を大切にしているようで、それぞれの園でどのような工夫をしているか共有した。「マイクを使って興味が持てるようにしている」「ピアノや手遊びなどで期待を高め、メリハリをつけられるようにしている」等の工夫点があった。全員が興味を持てるように気持ちを引くことで、円滑に話し合いを進められると感じた。

遠足の導入では、「時間をかけて導入ができている」「電車の乗り方、地図作り等の色々なアプローチの仕方で期待が高まると思う」といった、行っている導入についての意見、「パンフレットの活用が良かった」という活動に対して苦手意識を持っている子への対応について意見があった。「途中段階で模造紙を掲示するとさらに意欲が高まると思う」「できたものを発表する場面を作ると良い」等のアドバイスをもらい、今すぐにでも活用できることがあったため、自分の保育に取り入れていきたい。また、遠足は楽しみだと思っているが、なぜ意欲的になれないのかという疑問が上がり、検討していきたい。

クラスの雰囲気として、「普段の楽しい雰囲気が伝わった」「子どもの気持ちを聞いた上で主体的な保育ができている」等、嬉しい感想がたくさんあり、自己肯定感が高まった。分科会では、どの園も同じような課題を抱えていることや、保育の難しさを感じていることが分かった。園の保育方法や悩みを共有できる場となり、貴重な経験ができた。